

刊行にあたって

京都府立大学文学部歴史学科では、京都府内を中心にさまざまな地域をフィールドとして、歴史と文化遺産に対する調査研究を実施してきた。京都府内における調査研究の核となるのが本学の地域貢献型特別研究（ACTR）で、2024年度は、綾部市・宮津市・京丹後市での調査を、そして京都府北部におけるMALUI連携による地域づくりについての検討を進めた。また、京田辺市史および和束町史の編纂にかかる調査事業についても引き続き取り組んでいる。さらに本年度は文化庁・京都府との連携事業が本格的に始まり、授業・調査での各種連携を進めている。これ以外にも教員・大学院生・学生によって京都府内外で調査が進められている。こうしたフィールド調査成果の概要を、歴史学科では『フィールド調査集報』として刊行しており、本書はその第11号にあたる。

歴史学科では、文献史学・考古学・地理学・文化情報学・建築史学といった分野から、フィールドに残る文書・建造物・石造物・遺跡・景観といった多様な文化遺産に焦点を当てた調査をおこなっている。さらに、博物館などでの展示協力や、地域住民に対する報告会など、研究成果の活用・社会的還元についても、重視した活動を展開している。ともすれば、こうした調査は内部の報告書で終わりがちであり、また個別の教員の元でのみ成果が保管されがちであるが、歴史学科では年間の活動成果をまとめることで、調査活動およびその活用事例の公開・提示をおこない、研究・教育の成果の還元に努めている。

本書を通じて、歴史学科の活動と地域貢献の一端をご理解いただくことができれば幸いである。

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生がAdobe社のInDesignを利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

京都府立大学文学部歴史学科 フィールド調査集報 第11号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

発行日 2025年3月31日

印刷 株式会社 北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2
